フランス大使館主催レセプション（7月8日、於：駐日フランス大使公邸）における

スピーチ（日仏および日欧宇宙協力の紹介）

内閣府宇宙開発戦略推進事務局長　風木　淳

【冒頭、導入】

皆様こんばんは。私は内閣府宇宙開発戦略推進事務局長の風木淳と申します。

本日、在京フランス大使館にて、宇宙分野に深い関心と情熱を持つ皆様とお会いでき、大変光栄に存じます。

本日は、日仏間、そして欧州と日本の宇宙協力の現状と今後の展望について、簡単にご紹介させていただきます。

【日仏宇宙協力について】

フランスと日本は、長年にわたり宇宙分野で特別なパートナーシップを築いてまいりました。フランスが1965年、日本が1970年にそれぞれ初の人工衛星を打ち上げて以来、両国は健全な競争と強固な協力関係を育んできました。

2016年以降、定期的に開催されている「日仏包括的宇宙対話」は、日仏両政府が宇宙を高い優先分野として位置づけていることを示すものです。2023年のパリでの包括対話では、民生、産業、安全保障分野における協力の方向性が確認され、国連やG7などの多国間枠組みにおける連携も議論されました。

機関レベルでは、CNESとJAXAが中心となり、科学探査から地球観測、宇宙輸送、持続可能性に至るまで、幅広い分野で協力を進めています。また、宇宙状況把握（SSA）や宇宙安全保障の分野でも、演習や情報交換を通じて協力が進展しています。

【欧州と日本の宇宙協力について】

日仏協力を超えて、日本と欧州の宇宙分野における連携も戦略的かつ長期的な関係にあります。フランスはESAの主要メンバーであり、ロケット技術、地球観測、探査システムなどにおいて世界的な技術力を有しています。

CNES・DLR・JAXAによる再使用型ロケット「CALLISTO」の共同開発は、産業協力の可能性を示す好例です。

スタートアップや民間企業の参入が進む中、日欧の産業構造の相補性を活かした共同開発や市場拡大の機会も広がっています。２週間前に、パリエアショーの際に開催された日仏宇宙産業対話では、両国の産業界の強みと協力意欲が改めて確認されました。私自身も、その機会にCNESのフランソワジャック総裁（François Jacq, Chief Executive Officer, CNES）及びESAのジョセフ・アッシュバッハー欧州宇宙機関（ESA）長官（Josef Aschbacher, Director General, ESA）とも有意義な会談を行うことができました。

本日は宇宙飛行士のThomas Pesquet氏やHoshide Akihiko氏もご臨席ですが、国際宇宙ステーションに関する日欧の協力も重要です。先日（6月30日）、石破総理は、総理大臣公邸で国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）に滞在中の大西卓哉宇宙飛行士との交信を行いましたが、良いニュースでした。

【結び】

最後に申し上げたいのは、宇宙開発利用の未来は、国際的な強固なパートナーシップにかかっているということです。日本とフランス、そして日本と欧州の絆は、信頼、技術力、そして共通の未来志向に基づいています。

政府・機関間の協力に加え、産業界、学術界、民生を含めた幅広い連携を通じて、宇宙の可能性をさらに広げていきましょう。人類全体の利益のために、共に挑戦を続けてまいりましょう。

ご清聴、誠にありがとうございました。

（了）